

はしがき

愛知大学経営総合科学研究所の「まちづくり」に関するプロジェクトも7回くらいを数える。代表的な都市などを視察して、その成果を本研究所の叢書にまとめてきた。今回は年に2回の視察ができる予算がつき、水辺のまちづくりというテーマのもとで研究活動が行われた。8月の下旬は柳川市、9月の上旬には香取市を訪れた。水辺のまちづくりをテーマとしたのは、愛知大学と連携した蟹江町から講演講座を頼まれたことが発端となった。蟹江町では4つの特徴の異なった川が存在し、同町の面積の四分の一は河川である。河川は須成祭りなどで使われており、かつては水郷で利用されていたようである。ここで水辺を利用したまちづくりを比較する意味で、視察先を水郷のまちで知られている柳川市および香取市に決定した。

柳川市へは、麻生憲一（奈良県立大学）、駒木伸比古（愛知大学）、張 慧娟（愛知大学）、長橋 透（青山学院大学）、吉本理沙（愛知大学）の各先生方が視察され、香取市へは私を含め麻生憲一（奈良県立大学）、駒木伸比古（愛知大学）、張 慧娟（愛知大学）、長橋 透（青山学院大学）、角本伸晃（相山女学園大学）、野呂純一（学習院大学経済経営研究所）の各先生方が視察された。なお、これまでの視察メンバーであった藤井先生には自費で参加して頂き謝意を表する次第である。

過去における本研究所のまちづくりプロジェクトとの違いは、視察地域がこれまでにない九州と関東地域の都市に拡げられたこと、またテーマが水辺に絞られていることである。

本叢書は水辺を生かした3つのまちのまちづくりについて研究した成果であり、水辺のまちを比較する上で、たいへん有益なものとする。

2013年 2月
プロジェクト責任者
神頭広好